

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成23年10月13日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670105313号
法人名	社会福祉法人 吉田向陽会
事業所名	グループホーム むれが岡風車の宿
所在地	鹿児島市牟礼岡1丁目3番7号 (電話) 099-294-7007
自己評価作成日	平成23年7月12日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成23年8月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 運営推進委員のメンバーがすべて校区社協の理事であることから、地域密着が十分に図られている。
- 法人の母体が保育園であることから、小児との交流が随時はかられ、チャイルドセラピーの効果が出ている。
- 介護スタッフのほとんどが地域在住であるので、利用者となじみの関係ができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

民家改造型のホームで、これまでの生活の延長線上にあるような雰囲気のあるホームである。隣接する保育園から子供達の声が聞こえ、刺激を貰うなど生活感や季節感あふれる環境にある。法人は他にデイサービス、小規模多機能ホーム、保育園、児童クラブも市の委託を受けて運営していることもあり、利用者や職員の多くが地域住民であるため地域とのコミュニケーションが取りやすく情報も得られ、行事等にも参加し交流ができています。職員が近隣に住んでいることで、夜勤時の緊急対応も協力的で利用者の安心につながっている。ホーム便りは暖かく優しい内容で家族にも好評である。毎月、ケアの留意点を定め、目標達成にまい進しているホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員は就業時に理念を唱えて自分達の使命を絶えず確認している。	「ごく普通の生活をその人らしく、乳幼児や地域の方に囲まれて、穏やかに過せる暮らしを実行します。」の理念を作成、玄関に掲示し、職員は理念を確認し業務に入る。毎月、ケアの留意点も掲げ目標を持ってケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	介護スタッフのほとんどが地域居住者であり、利用者は地域の各種の情報に接することができる。	保育園行事、小学校・地域の運動会、防火パレード、文化祭に参加している。保育園児との毎週1回の交流会はチャイルドセラピーの効果がでている。また、自治会にも加入している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	法人並びに事業所の職員は地域の夏まつりや敬老会にも積極的に参加している。また、校区消防分団の行事にも参加し、安心安全に役立っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは、全員校区社協並びに校区公民館の役員であり、利用者の生活状態は周知している方々である。それらの方々に事業所での活動を報告することで、家庭状況や生活歴の情報を頂き、スタッフがどのようにケアしていけばよいかのアドバイスをもらっている。	地域、関係者の協力を得て、定期的に開催している。包括支援センター、吉田分遣隊からの情報、家族からの要望など貰っている。また、介護保険制度や小規模多機能についての説明をしたり、充実した会議内容でサービス向上に活かされている。	

鹿児島県 グループホームむれが岡風車の宿

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市介護保険課、高齢者福祉課に定期的に訪問し、指導・助言を受けている。</p>	<p>困難事例の相談や情報の交換など協力関係を築いている。介護相談員の受け入れも毎年行っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>ご家族と相談しながら、拘束が必要な場合はスタッフ会議で話し合い、期間、時間帯に注意しながら行っている。</p>	<p>ホームの目標達成計画に課題としてとりあげ、定期的に話し合っている。毎月のスタッフ会議でも確認、身体拘束をしないケアの検討、取り組みが継続的に行われている。施錠しない見守り重視のケアである。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>スタッフ会議で絶えず申し合わせをしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>事業内研修や、外部の成年後見制度の研修に参加している。</p>		

鹿児島県 グループホームむれが岡風車の宿

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前相談を十分に行い、納得していただいた上で契約を行っている。 退居のときも、退居相談を行い、十分に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族から直接話していただける環境づくりをして、できるかぎり当施設へきていただけるようにし、コミュニケーションをとるように配慮している。運営推進会議に利用者家族の出席をお願いし、運営に反映するようにしている。	面会時、電話連絡時に提案、要望を聞く機会を設けている。毎月、ホーム便り、健康チェック表を全家族に送付し、利用者の状況を報告している。出された苦情、相談等については職員全員で話し合い可能な限り改善している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われるスタッフ会議には、代表者や管理者は必ず出席し、スタッフの意見を聞き、運営に反映している。	毎月、スタッフ会議を全員参加で行っている。職員より利用者のケアについての提案が多くあり、反映されている。常に代表者、管理者は職員の意見を受け止める心構えができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当、入浴手当、調整手当、ベースアップ等を通して職員のやりがいを高めている。また、本人や家族（子ども等）の体調がすぐれないときは他の職員と交代できるよう配慮している。		

鹿児島県 グループホームむれが岡風車の宿

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修に参加した者は、研修報告をスタッフ会議の場で行い、他のスタッフに伝達して、内部研修を充実させ、スキルアップをはかっている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>吉田地区介護保険事業所の連絡会やケアマネージャーの交流会に参加し、地域の情報交換や勉強会に参加している。</p>		

鹿児島県 グループホームむれが岡風車の宿

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	病院や施設や居宅のケアマネジャーからの情報だけでなく、契約前にも、ご本人やご家族に訪問していただき、今までの人生経験等をお伺いする機会をつくり、ケアに役立てるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前から、施設への訪問やご家族へのお電話等、当施設の方針やご自宅（居宅）のご様子や今までのケアの内容等を十分に話し合えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人とご家族が今一番困っていらっしゃることに焦点を当て、まずそれを解決することに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ家族として接するようにしている。一律なケアではなく、個々の状況によって対応している。		

鹿児島県 グループホームむれが岡風車の宿

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に家族と連絡を取り、または当施設にお越しいただき、利用者一人一人の状況やご家族の思いを探り、ケアに生かしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出の場所の写真を撮ってきたり、昔の友だちに電話をしたり、訪問していただいたりするお手伝いをしている。	行きつけの理美容院や商店に出かける利用者もいる。ホーム周辺の利用者は友人の訪問を受けたり、散歩したりしてなじみの人、場所との関係が途切れない支援ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間に共通話題（昔話等）を提供し、お話ができるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、電話による様子伺いや、施設や病院に直接お見舞いに行くなどしている。		

鹿児島県 グループホームむれが岡風車の宿

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフの声かけや気付きによりご本人の意向を把握するように努め、ホームの暮らしが居心地のよいものとなるよう本人本位に検討している。	ほとんどの利用者が思いや意向を伝える配慮がなされている。困難な場合は、表情や動作などから把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご本人やご家族からお聞きしたことだけでなく、なじみの暮らし方やお好きな時間の過ごし方等、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間の連携により、ADLやIADLなど心身状態の把握に努め、午前・午後の2回のバイタルチェックにより健康状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の風車だよりにより、入居者の最近の様子を報告している。スタッフの気付きや主治医の指示を確認し、ご家族のご希望を伺うようにしている。	スタッフ会議でモニタリングし、気づきを話し合い、見直しに結び付けている。子供好きの利用者には定期的に保育園児との交流を支援している。ホームの外出レクリエーションも2カ月に1回は計画し、現状に即した個別介護計画を作成している。	

鹿児島県 グループホームむれが岡風車の宿

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活の記録とホーム日誌、健康チェック表を毎日記録している。必要な連絡については、随時、連絡ノートに記入し、引継ぎの時に伝言して計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の心身の状況をしっかりと把握し、本人のご希望とご家族の意向を踏まえて、当施設で今何をしなければならないかを的確に判断し実行するよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園交流や、保育園の夏まつりや運動会に参加して、幼い子供たちとのふれあいを楽しむ。移動図書館の利用や、外出日の散歩や買い物等により、暮らしを豊かにする。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	発熱などの緊急時の受診以外にも慢性疾患のための4週間に1回の定期受診や歯科、眼科、皮膚科などにも同行受診している。他に訪問診療や往診も受けている。	受診支援に当たっては健康チェック表を活用している。受診後の報告は随時している。受診は利用者および家族の希望に沿い、毎月、定期的に協力医療機関の訪問診療がある。	

鹿児島県 グループホームむれが岡風車の宿

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員は常駐していないため、バイタルチェック（検温、血圧測定、心身の状況把握）に努め、変化あるときはかかりつけ医の指示を仰いでいる。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>かかりつけ医のクリニックには入院設備はないが、入院設備を持った医療機関とも連携を保ち、必要な時には度々情報交換をするように努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ターミナルケアを当施設に希望されているご家族がある。現在、看護職員は常駐していないが、必要なときには、スタッフを増やすようにしていく。</p>	<p>重要事項説明書の中にターミナルケアについて謳い、指針に基づいて対応することを説明して、入居時に家族の意向を聞いて記録に残している。家族、医師、ホーム側で話し合いを重ね、個別に対応、支援していく方針である。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>毎月のスタッフ会議において、入居者の現在の状況を確認しながら、起こりうるリスクについて話し合っている。</p>		

鹿児島県 グループホームむれが岡風車の宿

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災報知機と消防への自動通報システムを設置していて、定期的に消防訓練を行っている。スタッフの多くは近くに住んでおり、ご近所や地域の方々にもお願いしている。</p>	<p>年2回、昼夜間想定 of 火災訓練を実施しており、地域住民の協力体制もできている。居室は1階にあり、まずは園庭に避難するよう自主訓練も実施できている。台風前は食料、飲料水など、備蓄している。</p>	

鹿児島県 グループホームむれが岡風車の宿

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、これまでの生活歴を知り理解した上で、一人ひとりに合わせた丁寧な言葉掛けや対応に心がけている。	個人情報の取り扱いについては重要事項説明書の中に記載し、入居時説明している。スタッフ会議の中で勉強会を持ち、言葉かけ、対応について話し合い、個別性に配慮した関わりを大事に支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とのコミュニケーションの中で、本人の希望や思いを見出し実現に向けての道すじ立てを行った上で自己決定できるよう促していく言葉掛けの工夫を行うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状態や体調に合わせて、好きな歌を歌われたり、外への散歩に出かける等、ゆったりとした中でのケアを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	その日に身につける衣類選びを一緒に行ったり、散髪や洗顔、髭剃りなど利用者が行いやすいよう、洗面道具を用意しお声掛けするなど努めている。美容院へ行きたい方は、要望があればお連れしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者へ好みをお聞きした上でメニューのバランスを考えて献立を立てるよう努めている。野菜の下ごしらえや味付の味見等していただき、食事への興味、関心が持てる工夫を行っている。	家庭菜園を管理し、収穫、下ごしらえまでを日課にしている利用者もいる。身体状況に応じてキザミ食、ペースト食にしたり、誕生会にはバイキング形式をとるなど、安全に楽しく食事できるよう配慮している。外食も年2回、弁当持参の花見やソーメン流しに出かけている。	

鹿児島県 グループホームむれが岡風車の宿

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量については、毎回の食事について記入を行い、十分な栄養がとれているか確認を行い、不足時には補食を行っている。また、10時、15時と水分補給をして頂いている。不足の際にはこまめな水分補給を行っていると共に、常に麦茶ミネラルウォーターを常備し、自由に補水して頂けるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりの口腔状態を知り、毎食後の義歯洗浄、ブラッシング、舌みがき、うがいを徹底して行っている。利用者ができる範囲で口腔ケアに取り組んで頂けるよう、声掛けを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄確認表を設置し、スタッフ全員で周知し、一人ひとりの排泄パターンに合わせた定期的なトイレ誘導を行い、排泄の失敗のないよう取り組んでいる。	自立している利用者もいる。排泄確認表を作成し、個々にトイレ誘導している。昼間はトイレでの排泄支援を心がけている。陰部洗浄、陰部清拭をこまめに実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の聞き取りを利用者より行い排便パターンを知り、また状態に応じて緩下剤の服用や浣腸の使用を主治医と相談の上行っている。外への散歩や室内運動、また野菜を多く取り入れた献立の工夫等行いながら便秘予防に努めている。		

鹿児島県 グループホームむれが岡風車の宿

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者の希望や都合をお聞きし、入浴日、入浴順を決めるよう工夫を行っている。入浴時にはゆっくりと入浴を楽しんで頂くために、状況に応じてスタッフは浴室外での見守りを行うよう努めている。	週3回以上を目安に入浴、清拭、足浴支援している。自立している利用者には声掛けと見守りで安全な入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムを把握し、居室や共有スペースを利用し、いつでも自由に休める雰囲気作りに努めている。また、室内においては適温を維持し、寝具等の清潔保持に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ間で利用者一人ひとりの服薬の状況について理解し、変更等ある時には連絡ノートに記載し変更認識がもてるように工夫を行っている。また主治医との連携を図り、利用者の体調の変化、要望を聞き、服薬の調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	週1回の保育園交流において、子ども達へのプレゼント作りを一緒に行う。庭の手入れを行う等、利用者の日々の生活の中から喜びや楽しみを見出し、スタッフはそれに応じたケアを行うよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の要望に応じて、近所への散歩や買い物と一緒に掛かけられる機会を作っている。歩行の困難な利用者も車椅子を利用し、屋外へ出かけられるよう支援している。地域での行事の参加や家族との外出等、連絡を取り合い、計画を立てての支援を行っている。	日常的に散歩や買い物に出かけている。買い物の日を設け、衣類購入など個別支援している。車椅子利用者も一緒に吉野公園、水族館、ソーメン流しに出かけている。家族との外出を楽しみにしている利用者もいる。	

鹿児島県 グループホームむれが岡風車の宿

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者からの要望や希望に沿って、買い物される際には必要な金額をその時にお渡しするようにしている。必要に応じて使用できるよう一定額はお預かりしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者からの希望に合わせて、本人が電話をかけたり、ご家族からの電話を受けご本人にとりついたり、自由に使用できるようにしている。いつでも手紙が出せるよう切手を用意しており、投函時もスタッフが同行し支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家庭的な雰囲気の中で、適度な室温、湿度を保てるよう、温度計・湿度計を設置し環境把握に努めている。自然な光や音を取り入れ、心地よく過ごせるよう努めている。居間や廊下に掲示を行い、生活感が感じられるよう工夫し、常に室内においての清潔保持に努めている。</p>	<p>民家改造型でリビングなど家庭的な雰囲気がある。陽ざしは障子やブラインドで調整している。日中は玄関、窓を開放し風通しの良い共有空間である。隣接する保育園から子供達の声が聞こえてくるなど、生活感あふれる場になっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間やソファでゆっくり過ごされたり、気の合う利用者同士が気兼ねなく過ごせるよう、スタッフは少し離れて静かに見守りを行うよう雰囲気作りに努めている。</p>		

鹿児島県 グループホームむれが岡風車の宿

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の思い出の写真や、思い出のある物を、お好きな場所に配置したり、利用者や相談しながら室内の清掃を行う等しながら、心地良い環境作りを行っている。</p>	<p>利用者の状況に応じて畳やフローリングの部屋がある。居室からはすぐ外にできる作りになっている。布団、テレビ、椅子、趣味の物品、テーブル、仏具、家族の写真など持ち込まれ、利用者の個別性がある居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者の安全を考え、自立支援を目的とし、廊下やトイレ内、脱衣所浴室の手すりやグリップの安定等、必要に応じて居室内の手すりやベッドへの介助カパーの設置、用意をしている。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホームむれが岡風車の宿

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホームむれが岡風車の宿

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない